

## 東北大学全学教育「展開ドイツ語」(2年生以上) 授業実践報告

カン, ミンギョン  
東北大学高度教養教育・学生支援機構 : 准教授

<https://hdl.handle.net/2324/4798371>

---

出版情報 : オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.42-42, 2021-04-30. 雷音学術出版  
バージョン :  
権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International

## 1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業は、週2コマ通年の「基礎ドイツ語」を履修しドイツ語の基礎を一通り習得した学生を対象に、文法知識と語彙力・読解力を強化して中級ドイツ語レベルにステップアップすることと、様々なトピックに触れることでドイツ語圏の社会と文化についての理解を深めることを目的に行った。

当初は読解中心の教科書を使う予定であったが、オンライン授業への変更に伴い、教科書の代わりに、Deutsche Welle 社が HP で提供している Web 教材を使用することにした。具体的には、Das Deutschlandlabor や Das Bandtagebuch – unterwegs in Deutschland の中からいくつかのトピック——前期の授業では「Schulsystem(教育制度)」「Urlaub(休暇)」「Migration(移民)」の3つ、後期の授業では「Esskultur(食文化)」「Die Berliner Mauer(ベルリンの壁)」「Weihnachten und Silvester(クリスマスと大晦日)」の3つ——を取り上げた(3~4回の授業で一つのトピック)。それぞれのテーマに合わせて、教員向けに提供されている教材(Unterrichtsreihen – Materialien für den Unterricht)も適宜活用した。また各学期末にはコロナ禍におけるドイツの経済状況など時事テーマも扱った。

授業は Google Classroom で授業動画(音声付きスライド)とハンドアウトを配信するオンデマンド型で行い、授業内容は文法練習の部分と社会・文化関連のテーマを扱う部分に分けて構成した。文法については基礎文法の復習を踏まえ、新出の中級文法の解説と練習を行い、ミニットペーパーでその定着や応用力を確認した。文化関連のトピックを扱う部分については、関連動画の視聴(5分程度、字幕あり)または文章読解の課題を前提に、授業動画では質問や間違いの多かった箇所を中心に解説する、いわゆる「反転授業」に近い形で進めた。

毎回の授業でミニットペーパーと課題を課したため、受講生には負担が大きかったかもしれないが、提出率は全体的に良好であった。ただ、中には提出したことに

満足してしまい、解答を確認せず同じ間違いを繰り返す学生もいたため、必ず次回の授業動画で各自答え合わせをしたうえでその間違い直しを再提出してもらうようにした。また、文章読解の課題の場合、中には Google 翻訳の結果をほぼそのまま提出していると思われるケースが見受けられたため、途中からテキストに空欄を多めに設け、文脈に合わせて空欄を埋めながら読解してもらえよう工夫した。成績評価は「ミニットペーパー30%、課題50%、期末レポート20%」に基づいて行った。

## 2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

この授業の特徴の一つとしてドイツ語の動画資料を積極的に使用したことが挙げられる。受講生からは「最初は5分程度の動画1本を観るのに何時間もかかったりしたが、慣れると字幕なしでも理解できるところが増えてきた」「これまでドイツ語に苦手意識があったが、少し克服できた気がする」「ドイツ語だけでなくドイツについても様々なことを学べて良かった」「今学期のオンライン授業の中で一番良かった」などの声が聞かれ、一定の成果を確認することができた。

他方、今回のオンライン授業で Google 翻訳に頼っている学生が多いことを実感した。近年急激に精度が向上している自動翻訳ツールは、使い方によって語学学習に役立つこともあれば学習の妨げになることもあり、その活用方法はまさに今後の課題である。コロナとともに突如始まった2020年度のオンライン授業であるが、そこで培ったノウハウは今後外国語教育の様々な場面で活用できるだろう。

<https://www.dw.com/de/deutsch-lernen/s-2055>